NIE実践報告

1．タイトル：☆情報を「入手し、まとめ、発信する」授業実践

2．学校名

兵庫県立飾磨工業高等学校(全日制課程)

3．実践者名（代表者名）

妻鹿　秀輝

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代社会　190人

6．単元（本時の学習課題）名

脳死は「人の死」か?　～臓器移植改正法成立をめぐって～

7．目標（狙い）

新聞記事を用いて、臓器移植法改正の是非を考える。
新聞記事から、臓器移植法改正をめぐるさまざまな意見を探し、その中で、自分の意見を表現する能力を養う。

8．評価の視点

臓器移植改正法をめぐる是非を、新聞を通じて移植を受ける側、提供する側の考えを入手し、まとめ、考える能力を養う。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

人間の尊厳と生命の尊重　臓器移植改正をめぐって(6時間のうちの2時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)授業の題材に関連した新聞をスクラップして使用する。≪新聞を見せる・読ませる≫
(2)授業で学んだ知識も踏まえて、今後どのような記事が出るかを探させる。≪自ら情報を入手する≫
(3)探した記事をまとめ、事実を正確に読み取る。≪情報をまとめる≫
(4)授業で学んだこと、考えたことを文章で表現し、各新聞社に投稿する。≪情報を発信する≫
この(1)～(4)までの流れを元に、授業を展開した。
(1)新聞を見せ、臓器移植法改正案が衆議院を通過したことを確認させることを導入とし、臓器移植とは?脳死とは?などの生徒から発せられる疑問点を整理しながら、基本的な知識を学ばせる。
(2)7月13日に参議院で審議されることを予告し、それまでに臓器移植法改正をめぐり、さまざまな記事が出されることを予告し、新聞やニュースをよく見て、気になった記事をスクラップするように指示する。
(3)脳死移植法改正は妥当かどうか。脳死を人の死と認めるかどうかなど、新聞記事の様々な立場からの意見を受け止め、自分の考えをまとめさせた。
(4)授業を通じて、臓器移植に関して考えたことを文章にまとめ、各新聞社に投稿した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

『臓器移植を待っている本人やその家族の考え』と『家族が脳死と判定され、臓器を提供する側の家族』それぞれの考えを、新聞を通じて触れることができ、臓器移植法改正は本当にこれでいいのかを苦悩しながら考える生徒が目立った。新聞を通じて、現在起こっている諸問題に直接触れ、考えることができた授業になった。

12．成果と課題

上記の実践の他、「死刑制度」・「冤罪」・「経済危機」・「不況を乗り越えるビジネスチャンス」などの題材を設定し、最後に生徒が主体的に考えて文章にまとめ、新聞社に投稿するところまで行った。生徒から「家で思わず新聞を見てしまった」という言葉が印象的である。授業で予告された内容が気になって、新聞を手に取る生徒が増えてきたこと実感した。授業で「予告」という仕掛けを作ることによって「思わず見てしまう」生徒が増えたことは効果的であったように思う。今後とも、新聞に思わず手を伸ばしてしまう生徒が増える授業を模索していきたい。